

ACG031-P05

会場:コンベンションホール

時間: 5月27日17:15-18:45

## 周極域の知見の再構築

### Reconstruction of knowledge on circumpolar region.

松浦 陽次郎<sup>1\*</sup>

Yojiro Matsuura<sup>1\*</sup>

<sup>1</sup>独立行政法人森林総合研究所

<sup>1</sup>Forestry and Forest Prod. Res. Inst.

周極域の生態系区分は、従来北からツンドラ植生、常緑針葉樹林とされ、土壌もツンドラグライ土壌、ポドゾル土壌という区分が帯状にされてきた。しかし、近年は新たな知見の集積と同時に地球規模のデータベース化作業が進み、従来の土壌学や生態学の縦割りの知識を改める必要が生じている。

周極域の森林生態系では、常緑針葉樹優占のタイプと落葉針葉樹優占のタイプに大別するべきであり、その立地条件に大きく関係するのは永久凍土の分布様式である。北東ユーラシアの凍土の連続分布域にはカラムツ（落葉針葉樹）の広大な生態系が成立している。一方、常緑針葉樹優占の広大な森林は凍土の連続分布域には成立しない。

土壌分類の知見も大幅に修正された。北方林のポドゾルやツンドラのグライ土壌は周極域に帯状に分布することはなく、ポドゾルの卓越分布域は北米東岸とスカンジナビアに限られている。有機質土壌の分布もツンドラ植生と随伴するのではなく、過去の氷床融解湖の位置と関係している。

周極域の生態系を正確に理解し、モデルによる将来予測の信頼性を高めるためには、従来のステロタイプの知識を再構築しておく必要がある。

キーワード:周極域,永久凍土,森林限界,土壌,森林生態系,構造と機能

Keywords: circumpolar region, permafrost, tree limit, soil, forest ecosystem, structure and function